



小国町の生ごみ堆肥化スタート

玄関前の回収は便利

小国町は本年度、生ごみ堆肥化事業を本格的にスタートさせた。1次発酵させた生ごみを各家庭から直接回収し、畑で2次発酵させて堆肥にする。家から生ごみを運び出す手間がかからず、町民が参加しやすい仕組み。堆肥を活用した農業振興も目指していく。

同町は生ごみを含む生活系ごみの量が豊島地方でも多く、2009年度から堆肥化を検討してきた。13年度にモデル事業として現在の取り組みを開始。生ごみの堆肥化は長井市など他の自治体でも実施しているが、同町の事業は仕組みが異なる。

一つは生ごみを家庭で1次発酵させる点。生ごみは細かくして専用のバケツに入れ、米ぬかやEM（有用微生物群）活性液などで作ったぼかし肥を加える。1週間置くと1次発酵するという。ぼかし肥により生ごみの臭いが抑えられる。

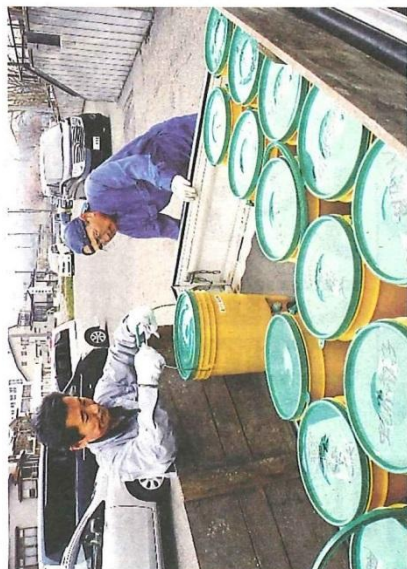
もう一つの特徴は家庭から生ごみを直接回収する点。町から委託を受けた「有機作物研究会」（川上光春会長）が毎週月曜日の朝、軽トラックで各家庭を回り、玄関前に出されたバケツを回収する。町は「重い生ごみを回収所まで運ぶ必要がなく、高齢者に優しい」と利点を強調する。

回収した生ごみは、その日のうちに町内の農家の畑に入れる。土の中でさらに発酵が進み、約1ヵ月後に堆肥となる。その後、稲や苗を植えることができる。

この事業には現在、町内中心部の約60世帯が参加している。昨年のモデル事業から参加している小国町のパート木村葵子さん(36)は「1週間の燃えるごみの量が半分になった」と成果を語る。畑で生ごみ堆肥を使ってきた小渡の農業今千代さん(63)は「この堆肥は野菜の日持ちが良い」と話す。

町は今後、参加家庭を増やす方針。また畑で堆肥になるまでの1ヵ月という時間を短縮するため、堆肥にしてから畑に還元する仕組みも考えていく。有機作物研究会は堆肥を生かした農業振興を目指しており、「耕作放棄地で生ごみ堆肥を使った農作物を栽培したい」と話している。

町は今後、参加家庭を増やす方針。また畑で堆肥になるまでの1ヵ月という時間を短縮するため、堆肥にしてから畑に還元する仕組みも考えていく。有機作物研究会は堆肥を生かした農業振興を目指しており、「耕作放棄地で生ごみ堆肥を使った農作物を栽培したい」と話している。



①軽トラックで各家庭を回り、生ごみの入ったバケツを回収する②回収した生ごみはその日のうちに畑に入れる。土の中でさらに発酵し、堆肥となる

＝小国町

4月25日付徳島新聞にEMによる河川浄化活動が、5月16日付山形新聞置賜版に小国町による生ごみ堆肥化事業が記事になりましたので、紹介いたします。

EM団子で川の水質向上 徳島市住民団体、園児と投入

徳島市内で水辺の環境保全活動に取り組む住民団体「川をきれいに隊」が23日、南昭和町1の御座舟入江川で、水質向上に効果がある有用微生物群（EM）団子を投入した。

メンバーが、半年前から作らせたEM団子約8千個を使用。近くの沖浜こども保育園の園児29人も手伝い「きれいな川」と言いながら投げ入れた。橋本凌空ちゃん(5)は「ボールみたいに投げて楽しかった。きれいになったらいいな」と話した。

御座舟入江はベトナムがたまり、住民の要望を受け市が今年1月に除染作業を実施。民間業者から20万円の寄付を受け、きれいに志隊がEM団子投入を引き受けた。（松菜重子）



EM団子を御座舟入江川へ投げ入れる園児ら＝徳島市南昭和町1